

主な内容
1面 第一回村議会定例会
2面 村長の施政要旨
3面 消防団再編成
4面 新沢部落ルポ

東由利村報

No.21 32.4.20
発行所 秋田県東由利村役場
印刷所 株式会社本間印刷所

昭和32年度村歳入歳出予算 (総括表)

Table with columns for Income (入) and Expenditure (出), subdivided by category (本算額, 前年度額, 比較). Includes items like 税金, 地方交付金, 国庫支出, 国庫雑入, 費用, 雑費, 賃金, 賞与, etc.

32年度予算決る

総額四千七十三万円

第2回村議会定例会
第二回村議会定例会は三月二十三日役場に招集され、二十七日までの五日間を会期と定めたが更に二十八日まで延長し、二十三日、二十六日、二十七日、二十八日それぞれ本会議が開かれた。

24日家畜市場を開設

正しい価格は市場から
岩谷市場最高三万円
高い市場価格
家畜市場は、正しい価格は市場から、モットーに行われるものです。このところ家畜の値段

一部改正条例
昭和三十二年における固定資産税率の特例に関する条例
一時借入金について(昭和三十一年度一般会計の予算内支出に充てるため、三百万円以内を一時借入することができる)
専決処分承認
立木売却処分(玉米財産区から寄附をうけた館合字水上地内

岩谷市場最高三万円
高い市場価格
家畜市場は、正しい価格は市場から、モットーに行われるものです。このところ家畜の値段

国有林二八二町歩の払下げ申請をする
昭和三十一年度村歳入歳出追加予算(追加額一、〇三八、〇〇〇円、総額四八、四七八、八二〇円)
昭和三十一年度村歳入歳出追加予算(追加額一、〇三八、〇〇〇円、総額四八、四七八、八二〇円)

自衛官 第一次募集

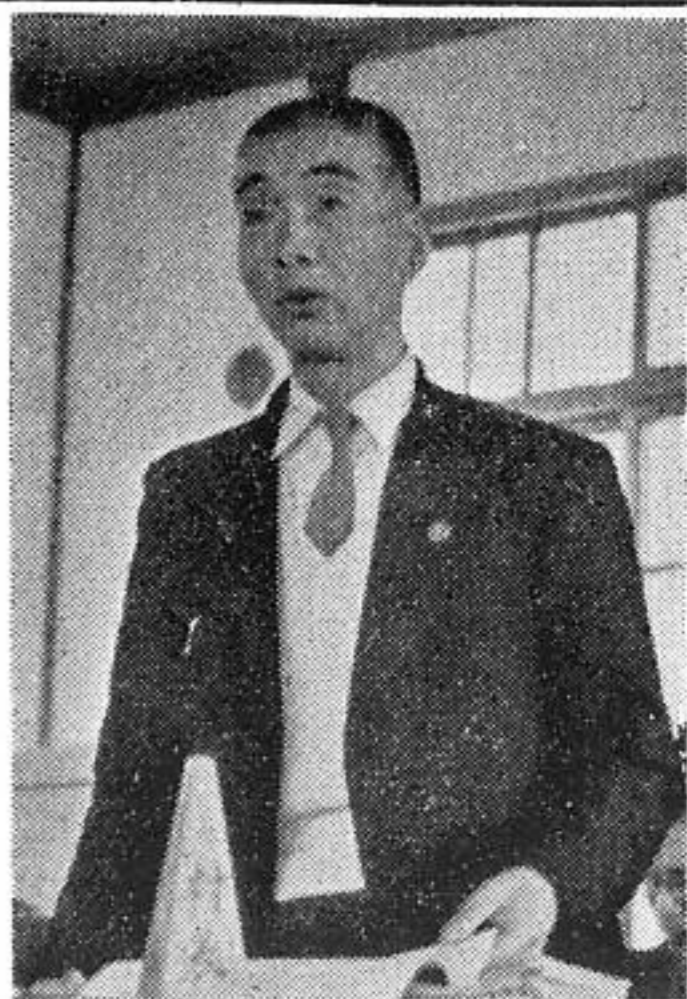
自衛官 第一次募集
防衛庁では三十二年第一次自衛官募集を行っております。採用予定人員は陸上一万一千四百名、海上八百名、航空五百名で、前年度第一次より陸上二千四百名、海上百名

今号は4ページ

少い予算を高度に活用

村長の施政要旨

基本財産の造成が急務



第二回村議会で昭和三十二年予算審議に先立ち、村長から施政方針について大要次のような説明があつた(写真は説明する梅津村長)

村一か年の方針を決定する昭和三十二年予算編成については財源などの関係からさうとう苦心した。

これは本年にかぎらず近い将来においても歳入増の見通しがなないので、消費的な経費の節約と少い予算を高度に生かすべく、内容については徹底的に検討したつもりである。

方針としては新村五か年計画を基本として村民の意見、要望をできるだけ取り入れ、同時に時代に即応できる施策に努めるが、それには村全般の経済力を増強して村財政に反映させることが今後の打開策になるものと考え

ている。経済力を増強するためには農業の振興をはかることもちろん重要であるが、広大な面積を有する山林の造成開発を軽視してはならない。

さしあたり村歳入は村税・地方交付税など合せて年間三千五百万円と見込まれるがほとんど一般経費にむけられるため、臨時

的経費は山林の処分など特別財源により実施しなければならぬ現状である。したがって村基本財産の造成が急務であり、村民間を問わず植林を重要視して適地を重点的に実施していく。また国有林の払下げについても努力を傾けたい。

施設としては、本村はいまだ多くの無電灯部落をかゝえており一部村民が文化の恩恵に浴しないことは同情にたえない。逐次解消をはかるが、本年度は沼

奥ヶ沢二部落を計画し予算に計上した。また電話架設も本格的には進んでないが逐次実現して通信網の完べきを期したい。

国民健康保険なども新聞等に三十五年まで国民全部に実施される、と報じられておりこれから

の研究課題としてとりあげる。現在もつとも重要で、かつ直面している問題に役場新庁舎の建築がある。これには約一千万円の経費を必要とするので財源に

苦慮しているが、不可能とは考えない。方法として一般経費の削減、増税、旧庁舎の利用など考えられるが、一日も早く実現

できるよう努力する。定時制高校独立校舎の建築もまた同様である。

この他、永年の懸案である農協の合併についても早急に村内四農協を解消して一本化をはかる

よう強く要望する。これと並んで各種団体の統合も促進されることを期待する。

なお消防は統一した行動できるよう編成替えした。

施設は充分ではないが近年充実してきているし、水利の研究など行つてますます万全を期したい。

民生委員の積極的な活動を期待

これについては民生委員の活動に負うところが大きい。このところ生活困きゆう者が増加している状況であり、これを研究の材料にとりあげてもらいたい。

また生活を安定させるために失業者には職を斡旋するなど、積極的な活動を期待する。

失業者ならびに二、三男対策として本村に事業をとり入れることも考えられるが、これには限度があるので状況を考えて仕事のある方に誘導していきたい。

本年の重点事業で大巾に増額

それには八郎潟干拓など大いに有望でないかと考えている。慰霊祭は全村一本にしてなるべく続けていきたい。

土木費

本年の重点事業であり大巾に増額した。工事施行にあたっては監督を充分にして有効にすゝめたい。

予防対策に重点

各部落に通ずる道路工事などは部落民の協力が必要とするので緊密な連絡をとつて協力を得たい。これまでの補助事業は改めたいと思うのでよく検討する。

衛生費

予防対策に重点を置く。近年、この成績は上つているが、費用全額を注いで全村民に及ぶようさらに努力していきたい。

国民健康保険は当然とりあげなければならぬ問題であり、これから研究する。

総額の四分の一に達する予算

教育費

教育費は総予算の四分の一にまで達するので有効に使うよう呼びかけている。将来小中学校の統合問題がおこると思われるので、これには充分研究して対処したい。

農業を基本に施策

品評会は新構想で

本村の実態から農業を基本として施策しているが、水稲単作依存では農家経営が困難になると予想されるので対策に腐心している。

産業経済費

予約制度は廃止される気運が高まっているが、作況調査は必要

と思われるので実施したい。また研究会、座談会なども計画しているので部落増産班長の活動をお願したい。

農産品評会は新たな観点から検討して今年開催したい。

農業改良では種子の更新が絶対必要と思われるので種子の買上げを行う。保温折衷苗代、三早栽培などは試験の域を脱して実際に根を下してきたことは喜ばしい。さらに山間部の普及を目ざしてすゝめていく。

多収穫品評会もこれまでの方法は無理な点が多いので今年から方法を替えて行いたい。農家はこの際どうしても多角経営に切替える必要があるので、副業を重視し、堅実な養蚕・葉タバコ栽培・製炭などに助成を考えている。畜産では家畜の諸検査を充分に

消防費

本村では二十九年の大琴大火の経験から現在の建築様式、その時の気象条件によつて大火になる可能性が強い。したがつて消防強化は實際面に力を注がなければならぬと思ふので、消防団員の基本訓練に加えて實際的な訓練が必要であり、一般の防火心を呼びおこすことがなによりも大切と考へる

實際面の強化を痛感

必要な一般の防火心

予算は消防団再編成によつて組まれていく。

袖山など五私立、公立に

各分団は精鋭主義

消防團再編成

新年度から村消防団が再編成されて新たに五分団を増設し、全部で十四分団編成になった。

第二回村議会定例会で「村消防団員定数条例」が改正になりこれまでの団員定数「三百八名」が「三百五十名」に改められた。

これは村民からの強い要望を取り入れ、消防強化を目標にして行われたもので、全機械力を集中

この分団増設を機会に、機械力の充実面などから検討して既設分団員の減員が行われるなど、総体として団員は増員されたが個々の分団は精鋭主義をとって備えることになった。各分団の団員数は次のとおりである。

第1(黒淵)	二八名
第2(田代)	二九名
第3(館合)	三〇名
第4(老方)	三一名
第5(蔵)	三五名
第6(法内)	二九名
第7(大琴)	二七名
第8(山崎)	二六名
第9(島宮)	一八名
第10(袖山)	一八名
第11(宿)	一五名
第12(松柴)	一六名
第13(新田)	一八名
第14(舟木)	一八名
本部	一二名
合計	三五〇名

30年度決算を認定

八七万円を31年度に繰越す

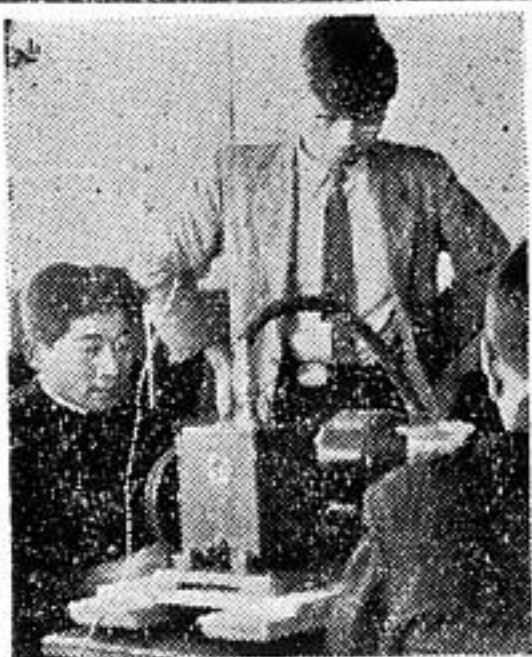
昭和三十一年度第一回村議会は二月十四日、十五日の二日間にわたって開かれ、提出された昭和三十一年度村一般会計及び特別会計決算が認定された。

新消防団長に 佐々木直三郎氏

村消防団長佐藤昇氏は病気のため辞任したので、三月一日各分団五名宛の選衡委員により推薦会が開かれ、後任に佐々木直三郎氏(前副団長)を選任、佐々木氏の団長就任にもなつて空席となつた副団長には畠山富男氏(前第二分団長)が選任された。

定振法補助による教材そろそろ

定時制高校下郷分校



同日それ〴〵辞令を交付されたが、任期はいずれも四年である

これにより下郷分校の教材設備額は一一四万円に達したが文部省基準総額三一五万円にはほど遠く、まだ三割六分強の設備であるがそれでも当分校開設当時からすれば大変な充実ぶりである。理科実験など九割は可能であるとのこと。

定時制高校下郷分校では昭和二十九年に引続き三十一年度にも定振法補助四〇万円の交付を受けたことは概法のとおりである。

これは理科と図書設備に充てられるもので理科器具五三三三〇

昭和三十一年度村歳入歳出決算(歳入合計四二、四四八、三八九円、歳出合計四一、五七一、〇〇五円、差引残額八七七、三八四円)翌年度へ繰越す

30年度決算の特徴

会計には「毎年四月から翌年三月までの支払はこの期間の収入金からしなければならぬ」という会計年度独立の原則があるが、東由利村はこの昭和三十年の七月、年度途中に合併して誕生したのでこの決算書には同年七月二十三日以降の収入と支出だけが上げられている。いわば不具な決算書といえよう。

【歳入】		【歳出】	
① 村地方交付税	15,198,833	① 議役費	1,125,497
② 地方交付税	5,577,000	② 会場防木育	6,445,107
③ 臨時交付税	1,244,000	③ 消防費	2,206,568
④ 地方交付税	180,428	④ 土教社及労働	2,603,911
⑤ 企業及財産	0	⑤ 社会費	17,574,175
⑥ 金担金	274,110	⑥ 衛生費	266,201
⑦ 手数料	2,927,062	⑦ 保健衛生費	461,750
⑧ 金支金	3,525,422	⑧ 経産調査費	5,689,807
⑨ 金支金	4,786,376	⑨ 統計費	1,127,728
⑩ 金支金	3,797,158	⑩ 統計費	108,734
⑪ 村債	5,100,000	⑪ 選挙費	133,883
歳入合計	42,448,389	⑫ 諸支出	954,364
歳入歳出差引残額	877,384円	⑬ 予備費	2,873,280
		⑭ 歳出合計	41,571,005

消息

長い間、役場勤業係として勤められた佐藤文十郎氏は三月三十一日で退職しました。

新正副分団長

消防団再編成によつて新設された分団の正副分団長、及び既設分団の前任者辞任による後任は次のとおり四月一日付で任命された。(数字は分団、カッコ内は前任者)

① 正	小野 政蔵 (畠山富男)
② 副	長谷山長一 (小野政蔵)
③ 正	遠藤 重雄 (小松玄一郎)
④ 副	遠藤 博 (莊野徳一郎)
⑤ 正	遠藤 直記 (千葉長吉)
⑥ 副	遠藤 博 (莊野徳一郎)
⑦ 正	遠藤 博 (莊野徳一郎)
⑧ 副	遠藤 博 (莊野徳一郎)
⑨ 正	遠藤 博 (莊野徳一郎)
⑩ 副	遠藤 博 (莊野徳一郎)
⑪ 正	遠藤 博 (莊野徳一郎)
⑫ 副	遠藤 博 (莊野徳一郎)
⑬ 正	遠藤 博 (莊野徳一郎)
⑭ 副	遠藤 博 (莊野徳一郎)

【庶務係】



新 澤 部 落

うなずかれる。新沢部落一九戸のうち現在完工して電気が引かれた家は一六戸、そのうちラジオは一〇戸に入っている。六割強の普及率である。家の中すみぐまで明るい電灯の下で、ラジオの楽しい番組に聞き入って、文化生活の一端を享受しているが、中には電気が引かれて喜んでいのは子供と老人ばかりと語る大人もいた。

部落負担は 百万円余

工事費をみてみよう。完工分工費は一六六万円、うち電力会社で四万円を負担してくれただが残りの一二五万円は部落の負担であり、なおこれに未完分二八万円が加わることになる。

部落民一つになって 努力の成果

部落長さんは最後にこう結んでくれた。部落の人々の生活はご飯鍋だけ分けあっているだけで、実際は一軒で生活しているのと同じことだ。今回の仕事でも部落民が一つになって努力した結果の成果であり、これを機会になお一層力を合せて文化的な、朗らかな生活を築き上げていくことが念願である。部落内を貫通して延々四軒にまで及ぶという高圧線は、寒風をうけて天空高くうなりを生じている。聞く人にとつては新生の産声とも、飛躍への胎動とも聞きとれるように。

(二月二十一日、記)

学校教職員の異動

【転出】 高尾小(蔵小) 菊地フ

山火事用心

公有地、私有地を問わず、火入れは必ず村長の許可を得てからして下さい。その他タバコ、焚火などにもよく注意して下さい。

ツエ、法内小(同) 土田喜也、高尾小(老方小) 高橋照子、玉米小(同) 小松忠正、小出小(法内小) 石沢八千代、鮎川小(同) 佐々木哲、種平小(宿小) 内藤齊治、西沢小(同) 斎藤亮太郎、高尾小(同) 遠藤チツ子直根小(玉米小) 高橋武、直根中(同) 佐々木凡夫、上川大内小(同) 長谷山和夫、老方小(同) 遠藤政雄、西目高(玉米中) 鈴木文雄、石沢小(住吉小) 斎藤新、道川中(下郷中) 佐々木洋二、西目中(玉米中) 佐藤繁英、院内小(同) 大井勝雄、玉米小(同) 佐藤良子、梅津和夫、同(高尾小) 戸村ミサ、老方小遠藤政雄、法内小(石沢小) 梅津ナリ、同土田喜也、宿小(高尾小) 戸村忠二校長、同(松ヶ崎小) 佐々木馨、玉米小小松忠正、同(葛岡小) 須藤京子、同(石沢小) 清野利夫、同佐藤良子、住吉小(笹子小) 三船正助、下郷中(道川中) 伊藤敬介、玉米中(西目中) 小野清次郎、同(直根中) 斎藤亮一、同(上川大内中) 渋谷久雄

共済組合の役員改選

本村農業共済組合では三月二十一日臨時総代会を開き、任期満了による役員の改選を行った。選挙の結果次の理事七名、監事三名が当選した。

【理事】 小松久一郎・小野嘉一郎・佐々木精一郎・小笠原彦次、遠藤武雄・鎌田養一郎 高橋重助 【監事】 志村金之助・佐々木君三、菅原鶴三郎

組合長に小笠原氏

四月一日役員改選後初の役員会を開き、組合長に小笠原彦次氏副組合長に小松久一郎氏、代表監事に菅原鶴三郎氏をそれぞれ選任した。【村農業共済組合】

電気が入った

現 地 ル ポ

皇居歌会始めの御題「灯」にちなんだわけではないだろうが新沢部落では部落民一致して念願してきた電気の導入が実現した。ある日、係はこの新沢部落を訪れて卒直な喜びや苦悩などいろいろメモしてくる機会を得たが、以下はその訪問記。

ランプ生活は すでに昔話

開口一番、部落の人達は「明るくなつてよかつた」といふ。始めて送電された日は去る一月二十八日、それまでの待ち遠しいことは大変だったという。点灯された瞬間のまばゆいこと。また座敷の中が熱くなるような気がしたとか……もうチョーチンなんかバカくさくて持たなくなつたとも聞いたこの間までの暗いランプ生活はすでに昔話となつてしまつたわけである。

一度は経験する 陣痛の苦しみ

ともかくも新沢部落は、ラジオの普及率六割はさりながら、電

衛生メモ ◆各種予防接種が行われております。該当者は必ず受けよるようによましよう。本村に伝染病が多く発生しないのはこの予防接種のおかげです。

◆ハエ・蚊・蚤など衛生害虫の発生期となりました。協同して早期撲滅に心がけ、明るく住みよいそして家畜家金の肥える村にしましよう。

◆五月に入ると清潔検査があります。今から心がけて準備して下さい。

◆春は長い冬の間手を廻しかねた家屋内外の掃除、修理などで沢山ゴミがでます。これらのゴミは必ず部落で協議してきめたゴミ捨場に捨てることにしましよう。人の迷惑にならないようにすることです。

◆共同井戸の不潔がめだつております。一日も欠かせない大切な飲料水がそれだけ不潔なことになります。みんなで欠かさず手入れを行いましよう。

【衛生係】